

# オーストラリア先住民映画祭2024

オーストラリアの先住民(アボリジナルの人々とトレス海峡島嶼民)は6万年以上前からオーストラリアに住み、世界でも最古に属する文化の伝統を守ってきました。

18世紀に始まったヨーロッパ人の入植は彼らの生活に大きな衝撃を与えました。それでも彼らの文化は生きながらえ、今も彼らはその精神性、土地との繋がりを様々な芸術を通じて表現しています。

1960-1970年代にかけてテレビが家庭に普及する中、先住民の権利回復運動の高まりと相まって、この口承に基づく文化から、新たな表現手段としての映画が先住民自身により作られるようになりました。

1990年代には、オーストラリアの映画機関の振興策により、新しい先住民の映画製作者たちが相次いで登場し、彼らはこの新たな表現手段を自らのものとして、作家性を追求するようになりました。現在、ウォリック・ソーントン、レイチェル・パーキンズ、リア・パーセルなど先住民の監督は世界で活躍をしています。

先住民の監督による作品を上映する今回の「オーストラリア先住民映画祭」。映画という光の芸術により、紡ぎ続けられている彼ら自身の文化の物語に触れて頂ければ幸いです。

Australia's First Nations Peoples - the Aboriginal and Torres Strait Islanders - have lived in Australia for over 60,000 years and are custodians of the world's oldest living culture. European colonisation since the 18th Century dealt a heavy blow to their way of life. Despite this, their culture has survived, which is expressed to this day through spirituality, a connection to country and a range of other artforms. As a culture based on oral history, the growth of Television into our living rooms from the 1960-70's saw the movement for Indigenous civil rights coalesced with the first attempts by indigenous people to create their own films as a new form of expression. The 90's saw a wave of Indigenous filmmakers come onto the space through initiatives by the Australian Screen Agencies, creating the surge of Indigenous filmmakers making the artform their own and fully utilised this new way of expressing themselves. Today, Indigenous directors, such as Warwick Thornton, Rachel Perkins and Leah Purcell, are active across the world. The Australian First Nations Film Festival brings together works created by a range of Indigenous directors. We hope that this festival is an opportunity for you to engage with the stories from First Nations people who are continuing the cultural storylines of their ancestors through the artform of light that is film.

## オーストラリアの先住民について

アボリジナルの人々とトレス海峡島嶼民は、オーストラリアの先住民にあたります。アボリジナルの人々は、現存する世界最古の文化を受け継ぐ存在です。オーストラリア大陸には様々な異なる先住民の人々が暮らしており、それぞれが独自の文化や慣習、言語、ルールを有しています。アボリジナルの人々は6万年以上にわたり、オーストラリアの大地と調和して暮らしてきました。一方、メラネシア系先住民にあたるトレス海峡島嶼民は、クイーンズランド州の最北端とパプアニューギニアの間、大陸の北に位置するトレス海峡の島々に、数千年前に定住し始めました。

こうした先住民文化は多彩で力強さにあふれ、オーストラリアの国民性を語る上で欠かせない存在となっています。

## Australia's First Nations Peoples

Aboriginal and Torres Strait Islander peoples are the first peoples of Australia. Aboriginal Australians are custodians of some of the oldest continuous living cultures in the world. The continent is made up of many different and distinct Aboriginal groups, each with their own culture, customs, language and laws. They have lived in harmony with the Australian continent for at least 60,000 years. The Torres Strait Islander people of Melanesian origin, first settled on islands north of the mainland between the tip of Queensland and Papua New Guinea thousands of years ago. Their cultures are diverse, strong and a vital part of Australia's national identity.



## マイベッド、ユアベッド

My Bed Your Bed

監督: エリカ・グリーン (Erica Glynn)  
1998年 / 17分 / オーストラリア  
出演: アースラ・ヨビッチ、トレバー・ジェイミソン

見ず知らずの2人が許婚となる豪先住民の古いしきたりを、みずみずしいタッチで描いた軽快なラブコメディ。

人里離れた集落で伝統的な結婚のしきたりに沿って、許婚となったデリアとアルビン。ついにふたりと一緒に暮らし始める日がやってきた。しかし、どうも思ったように物事が進まなくて…。中央オーストラリア奥地に暮らすアボリジナルピープルが伝統と現代の営みの両方から影響を受けて、価値観を形成していく姿を検証することで、アボリジナルピープルとしてのアイデンティティという概念を模索する姿を現代的なタッチで描いていく。



## フィンク 悠久の大地を駆ける

Finke: There and Back

監督: ディラン・リバー (Dylan River)  
2018年 / 92分 / オーストラリア  
出演: デイヴィッド・ウォルシュ、アイザック・エリオット、デモン・ストーキー、ガレス(スクラップ)・ハミル、ルーク・ヘイズ  
ナレーション: エリック・パナ

「砂漠の王者」の称号獲得に人生をかける、ライダーたちの情熱を映し出す娯楽ドキュメンタリー。

フィンク砂漠レースは、ライダー、観客、アリススプリングスの町にとって、バイク競技以上の意味を持っている。レース完走を目指す下半身不随のレーサー、バイクでいっぱいの車庫に住みながらフィンクレース参加を夢見る者…。参加者が命をかけて砂漠を駆け抜けようとするのは、なぜなのか。競技に駆り立てる情熱は、どこからくるのか…。人生に一度の大舞台のために砂漠へと向かう彼らの「砂漠の王」の称号をめぐる、プライドをかけた闘いが今、幕を開ける。



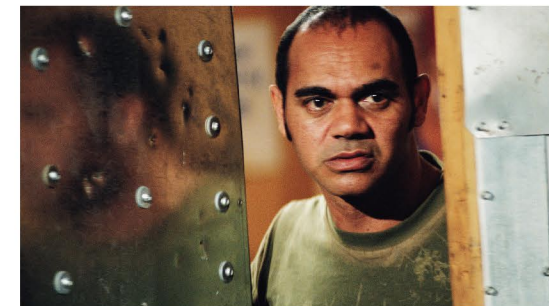
## ヌラヌラ

Nulla Nulla

監督: ディラン・リバー (Dylan River)  
2014年 / 6分 / オーストラリア  
出演: ウェイン・ブレアー、カーン・チッテンデン、オドリー・マーチン、パメラ・サンブソン

ヌラヌラ(こん棒)を振り回すおばあちゃんたちに立ち向かう白人の若手警官。西部劇の雰囲気を感じざる軽妙なコメディ。

警察学校を卒業したばかりの若い白人警官が、先住民系の先輩警官にうながされ、おばあちゃんたちの喧嘩の仲裁に入る。しかしアボリジナルピープルの地域社会と初めて接する若手警官は、教科書通りの接し方しかできず、おばあちゃんたちに叩きのめされてしまう。先住民コミュニティの暮らしの複雑さに直面し、自分の未熟さを痛感することになる若手警官の姿を軽妙なタッチで描いた一作。ベルリン国際映画祭ジェネレーション14プラス部門最優秀短編映画賞にノミネートされた。



David Page as Kenny

## グリーン・ブッシュ

Green Bush

監督: ウォリック・ソーントン (Warwick Thornton)  
出演: デイヴィッド・ベイジ、テッド・イーガン・ジャンガラ、オドリー・ナハンガ・マーチン、レオ・ウェイン・ジャムビンガ  
2005年 / 27分 / オーストラリア

深夜の先住民コミュニティ向けラジオ局を舞台に、DJと老人たちの絆を描く感動作。

先住民コミュニティ向けラジオ局のDJケニーの元には、刑務所の中にいるリスナーに贈りたい曲のリクエストがひっきりなしに届く。ケニーの番組「グリーン・ブッシュ」がはじまると、ラジオ局には地元の老人たちが集まりだす。コミュニティラジオ局が地域で担う社会的な役割を、一夜の出来事を通して描いていく。ヴェネツィア国際映画祭審査員特別賞『スウィート・カントリー』(17)等で、国際的に知られるウォリック・ソーントン監督作品。本作はベルリン国際映画祭パノラマ部門最優秀短編映画賞を受賞した。



## 家畜追いの妻 モリー・ジョンソンの伝説

The Drover's Wife: The Legend of Molly Johnson

監督: リア・パーセル (Leah Purcell)  
2021年 / 109分 / オーストラリア  
出演: リア・パーセル、ロブ・コリンズ、サム・リード、ジェシカ・デガウ、ベネディクト・ハーディー

人里離れた奥地に暮らすモリーの元に、先住民の脱走犯が現れる。ふたりは予期せぬ絆を結ぶことになり…。

1893年、オーストラリア奥地。モリーは夫の帰りを待ちながら、女手一つで農場を守っている。そこに首枷をはめられた先住民脱走犯ヤダカが現れる。ふたりの間に思いがけない絆が生まれ始め、それまで秘密にされてきた、モリーの生い立ちの真実が明らかになっていく…。人種差別と女性蔑視を取り上げたスリリングな本作は、オーストラリアの作家ヘンリー・ローソンが1896年に発表した同名短編をもとに、オーストラリアの女優リア・パーセルが製作・監督・主演で映画化した。

監督&プロデューサー来日決定!トーク有